

|   |            |          |              |
|---|------------|----------|--------------|
| <b>寒小ギクの少量土壌培地耕</b>   |            |          |              |
| <p>【要約】少量土壌培地耕で栽培した寒小ギクは、土耕栽培に比べ採花時期が早まる。また、下部の不要な側枝が少なくなるため出荷調整時の手間および廃棄物が減少し、かん水・施肥作業の自動化とあわせて省力化・軽労化を図ることができる。</p> |            |          |              |
| 農業技術振興センター 栽培研究部 花き・果樹分場 花き担当   |            |          | 【実施期間】平成19年度 |
| 【部会】農産  | 【分野】高品質化技術 | 【予算区分】県単 | 【成果分類】指導     |

### 【背景・ねらい】

近年、ホームユース用切り花の需要が拡大しており、これに対応した切り花栽培技術の確立が求められている。また、県内の小ギク栽培においては生産者の高齢化が進み、労働時間の短縮が期待できる切り花の短茎化への関心が高まっている。

そこで、施設内で栽培される寒小ギクの切り花長60cmを基準とした省力化・軽労化栽培技術として、プランターを用いた少量土壌培地耕での栽培について基肥1回施肥による土耕栽培と比較検討する。

### 【成果の内容・特徴】

少量土壌培地耕で栽培した寒小ギクの採花時期は土耕栽培より早まり、品種間差はあるものの8月下旬定植でも年内出荷が可能となる（表1）。

本試験での定植日、施肥方法により、少量土壌培地耕、土耕ともに切り花長は60cmをほぼ確保できる（表1）。

寒小ギクを少量土壌培地耕で栽培することにより、切り花下部の不要な側枝が減少し、調整時の手間および廃棄される側枝が削減される（図1）。

少量土壌培地耕では、かん水、施肥作業をタイマー制御により自動で行うため、省力化・軽労化を図ることができる。

### 【成果の活用面・留意点】

少量土壌培地耕では、プランターを用いることで耕耘等が必要なく、水稻育苗ハウスの後利用として活用できる。しかし、本試験における作型では水稻の収穫時期と摘心、整枝時期が重なるため、労力確保が必要となる。

本試験では、少量土壌培地耕での窒素施用量は1.9kg/aと土耕栽培の1.0kg/aより多かったが、1回あたり給液量あるいは給液回数を調整することで施肥量の節減は可能である。初期投資費用は、給液装置、プランターあわせて10aあたり120～170万円である。

[ 具体的データ ]

表1 寒小ギクの少量土壌培地耕および土耕における切り花品質と採花時期

| 品種名<br>試験区 | 切り花長<br>(cm) | 切り花重<br>(g/本) | 節数<br>(節) | 側枝数<br>(本) | 花蕾数<br>(個) | 採花始<br>(月/日) | 70%採花<br>(月/日) | 採花終<br>(月/日) |
|------------|--------------|---------------|-----------|------------|------------|--------------|----------------|--------------|
| 新年桜        |              |               |           |            |            |              |                |              |
| 土 耕        | 70.0a        | 54.0a         | 27.4a     | 8.8a       | 10.1a      | 12/25        | 1/ 5           | 1/13         |
| 少量土壌       | 67.1b        | 42.7b         | 26.4b     | 8.6a       | 10.1a      | 12/18        | 12/26          | 1/ 9         |
| 冬の詩        |              |               |           |            |            |              |                |              |
| 土 耕        | 74.3a        | 57.5a         | 25.0a     | 10.0a      | 11.8a      | 12/26        | 1/ 7           | 1/13         |
| 少量土壌       | 72.8b        | 37.9b         | 25.4a     | 8.5b       | 9.7b       | 12/21        | 12/27          | 1/ 7         |
| 寒来         |              |               |           |            |            |              |                |              |
| 土 耕        | 67.5a        | 61.7a         | 30.5a     | 6.7a       | 7.9a       | 12/27        | 1/ 7           | 1/13         |
| 少量土壌       | 63.6b        | 43.2b         | 32.4b     | 7.2a       | 7.4a       | 12/26        | 1/ 4           | 1/10         |

- 注1) 耕種概要：試験は花き・果樹分場内ビニルハウスにおいて実施した。2007年8月2日挿し芽、8月28日定植、9月4日に摘心し、9月21日に3本に整枝を行った。
- 2) 土耕：90cm幅ベッドに株間20cm、条間20cmで4条植えた。  
 施肥は有機アグレット727とエコロング100日タイプを窒素量で0.5kg/aずつ施用した。  
 かん水は散水チューブによる手動かん水で管理し、天候の状態を見ながら週1～3回かん水を行った。
- 3) 少量土壌：外径74.5×24×14cmの発泡スチロール製プランターに8株/プランターで定植した。  
 施肥はOK-F1のEC0.5dS/m(窒素濃度75ppm)養液を1回あたり280～300mL/プランター、1日3回給液で行った。施肥量は一作あたりの窒素量で1.9kg/aであった。
- 4) 表中の異なる英小文字間はt検定で有意差(5%水準)があることを示す。



左：土耕区(2本)  
 右：少量土壌区(4本)

図1 寒小ギク‘新年桜’の収穫時の草姿

[ その他 ]

- ・ 研究課題名
  - 大課題名：消費者等の多様なニーズに応える高品質・高付加価値化技術の開発
  - 中課題名：安全・安心・高品質な農畜産物の生産技術の開発
  - 小課題名：花きの高品質省力生産技術の開発
- ・ 研究担当者名：村木慎吾
- ・ その他特記事項：